

2006年7月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

北半球500 hPa 高度では、ヨーロッパと大西洋西部の正偏差が顕著で、特に北欧では+120 m以上の正偏差が見られた。また西シベリアで負偏差、中央シベリアで正偏差が明瞭で、ヨーロッパからシベリアにかけて偏西風の蛇行が平年より大きかった。なお、日本の南の正偏差と北米西部の正偏差も明瞭だった。

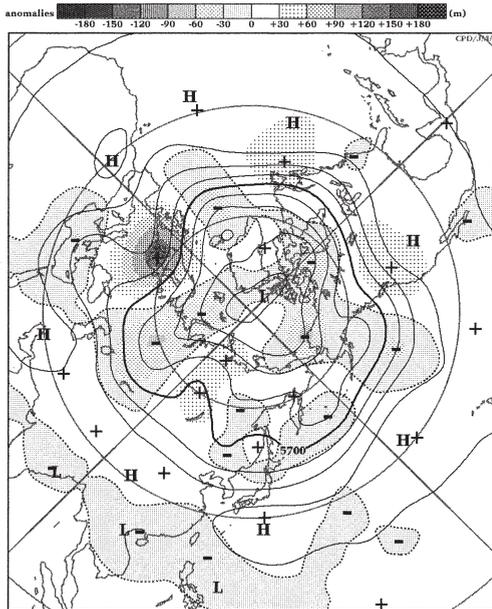
熱帯の対流活動は、インド洋西部赤道域で活発だった他は不活発で、インドネシア付近でも不活発だった。上旬に MJO が西部太平洋を通過した際、フィリピン付近では対流活発域の北西進が見られた。フィリピンの東海上では月を通して対流活動が活発で、これに対応して台風第3～5号が発生・北西進した（第3号は6月に発生）。太平洋赤道域はほぼ平年並、中米周辺では活発で、東部太平洋では5個の熱帯擾乱が発生した。

850 hPa 流線関数および風ベクトルでは、インド洋赤道域からインドネシア付近で高気圧性循環偏差、アラビア海からフィリピン付近で低気圧性循環偏差が見られ、下層のモンスーン循環は強かった。モンスーントラフが平年より深く、フィリピン東海上まで水蒸気が流入しやすい状態だった。

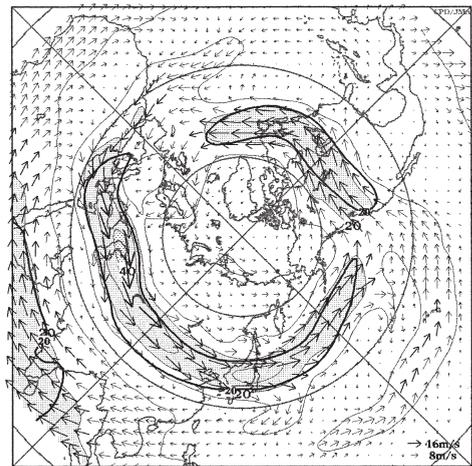
SOI（南方振動指数）は-0.8となった。

世界の天候

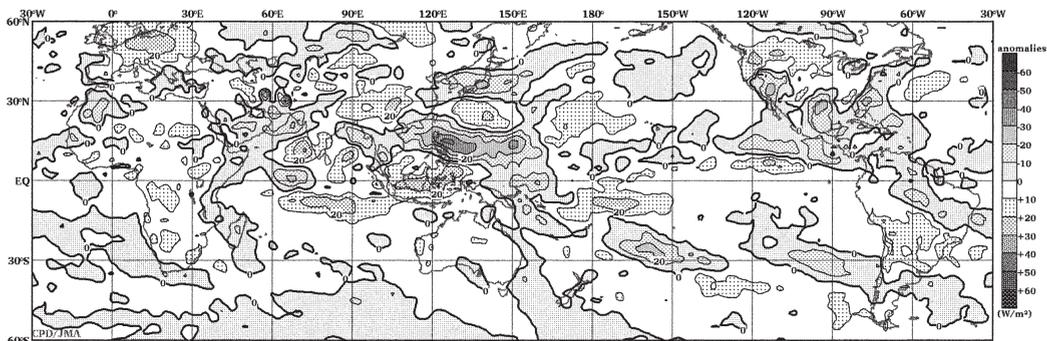
- ① 東日本から朝鮮半島の多雨
活発な梅雨前線による大雨のため、日本で30人以上、韓国で約50人、北朝鮮で800人以上が死亡または行方不明と報じられた。
- ② モンゴルから中国北部の多雨
- ③ 中国中部からネパールの高温
- ④ カリマンタン島からインド南部の高温
- ⑤ インド北西部からサウジアラビア東部の高温
- ⑥ ヨーロッパ東部の少雨
- ⑦ ヨーロッパからアフリカ北西部の高温
月の後半の熱波により、フランスで60人以上の死者が伝えられたほか、スペイン、オランダ、ドイツでも死者が報じられた。
- ⑧ アフリカ西部の高温
- ⑨ 米国北部から西部の高温
米国西部では月の後半に熱波に見舞われ、140人以上が死亡したと伝えられた。また、北米西部で複数の森林火災の発生が報じられた。
- ⑩ メキシコ南部からバルバドスの高温
- ⑪ 南米中部の高温
(気象庁地球環境・海洋部気候情報課 福山幸生)



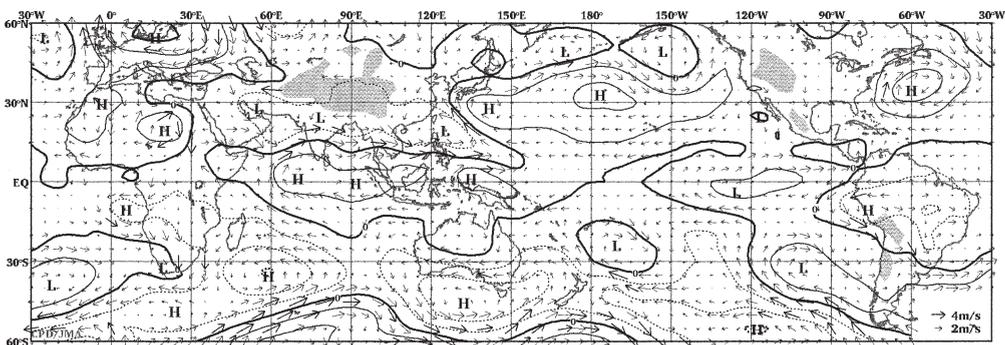
2006年7月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差
等値線間隔は60 m, 偏差パターン間隔は60 m, 平年値は1979～1993年のECMWF15年再解析データによる。



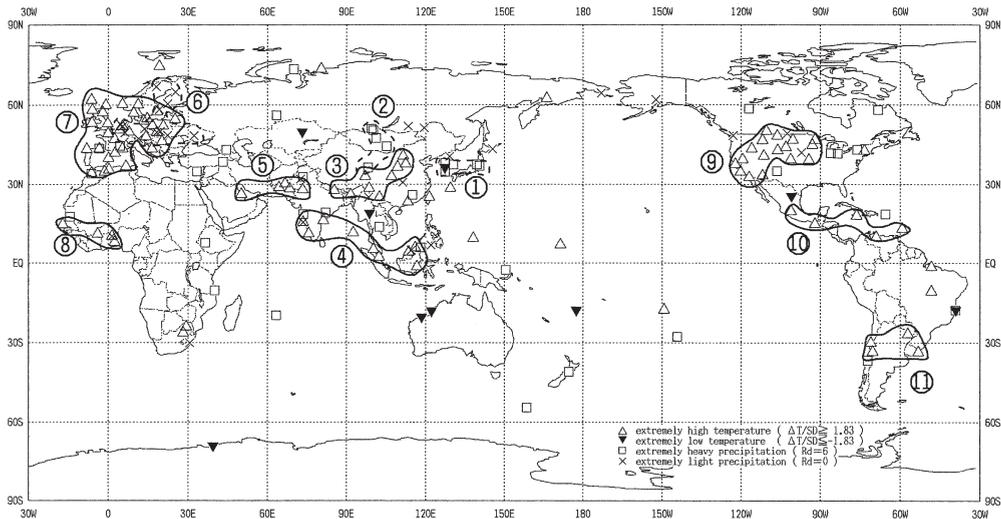
2006年7月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル
等値線間隔は20 m/s, 陰影部は40 m/s以上, 太実線で囲まれた領域は平年の40 m/s以上の領域を示す, 平年値は1979～1993年のECMWF15年再解析データによる。



2006年7月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は 10 W/m^2 で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データはCPC/NCEP/NOAA、年偏差は1979~2000年のデータから作成。



2006年7月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



2006年7月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。図中の番号は本文中の番号と対応している。